



第4号

岡津の翼

令和5年7月19日

横浜市立岡津中学校

校長 相澤 順

同校 学校だより担当

1学期、ありがとうございました

梅雨明け前から夏本番の厳しい暑さが続いています。生徒たちは変わらず様々な教育活動にしっかりと取り組んでいます。

保護者の皆様には7月10日より最も暑い時間帯に個人面談にお越しいただきました。本当にありがとうございました。生活面や学習面を中心に学級担任との実りある面談になったことと思います。2学期以降のお子様によりよい学校生活につながるよう、家庭でのご支援をよろしくお願いいたします。

また、部活動では土日の市大会等の応援に駆けつけてくださり、こちらも感謝申し上げます。私自身、できるだけ足を運び、各部の奮闘ぶりを見させていただきました。勝利に向かって一丸となって取り組む姿、最後まで決してあきらめない姿、声をからして精一杯声援を送る姿、以前よりもずっとたくましく成長した姿などを目の当たりにして、何度も目頭を熱くしていました。保護者の皆様も同様の想いであつたのではと思っています。

炎天下のグラウンドで、うだるような暑さの体育館で、突然の豪雨の中でなど、部員たちはもとより応援する側にも相当体力がいるなど、実感したところです。夏休みまで続いていく大会やコンクール等での各部活動のさらなる活躍、健闘を祈ります。

21日より38日間の夏休みに入ります。お子様のご家庭や地域で安全に安心して過ごせますように、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。1学期、ありがとうございました。



【市総合体育大会：熱戦の一場面】

令和5年度 横浜子ども会議テーマ

「つながる、広げる、いじめの未然防止の輪」

～いじめをなくすために、一人ひとりができること～

平成25年に「いじめ防止」の取組として始まった「横浜子ども会議」は毎年各中学校ブロック等で開催が継続され、10年目の節目を迎えました。今年度のテーマ（標記）をもとに岡津中ブロック「横浜子ども会議」は、7月12日に本校のミーティングルームで行われました。

上矢部小人権委員会の代表3名、岡津小運営委員会の代表3名からいじめの未然防止に向けたそれぞれの学校での取組や実践報告に続き、岡津中生徒会本部役員2年生3名より、本校でこれから取り組む予定の「インターネットなど情報モラルの理解を深める学校づくり」についての紹介がありました。それぞれの発表についての感想や意見交換のあと、いじめの未然防止のために今年度3校で共通して取り組んでいく内容を決めました。その内容等については8月28日に、泉区交流会「横浜子ども会議」で3校の代表児童生徒が協力して発表することになっています。

2学期、生徒会代表3名からのいじめ未然防止に関する発信を、岡津中全校生徒一人ひとりが受け止めて、各自ができることを心がけることで、「いじめが起これにくい学校づくり」につながっていくことを期待しています。本校での「子ども会議」の企画・運営にあたった生徒会本部役員の皆さん、大変お疲れさまでした。



よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 泉区審査会開催

6月29日、泉公会堂で標記の審査会が行われました。本校からは校内審査会で選ばれた3年生の高橋佑菜さんが出場しました。このコンテストは「児童生徒一人ひとりが国際平和のための自分の考えを言葉で表現することによって、国際平和に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとするグローバル人材を育成する」という目的で実施されています。

自らの考えをエネルギーに堂々と発表したスピーチは、会場から好評を得ました。以下、発表原稿です。

＜「みんなが幸せになれる社会を目指して」 3年 高橋 佑菜さん ＞

私は、小学校の給食が大好きでした。ある日給食当番で食器を返したとき、ものすごい量の食べ残しを目にしました。この量だけでも胸が痛むのに、これが日本中の小学校で起こっていると考えると、とてももったいない、どうにかならないのかとやりきれない気持ちになりました。こんなにも食べ物を粗末にしている私たちがいる一方で、世界にはおなかをすかせている人々や、食べ物を得られず、餓死してしまう人々もいます。私は小学生ながらに罪悪感を抱きました。



そんなとき、テレビで子ども食堂のことを知りました。ボランティアで子どもたちに食事を提供しているご夫婦の話でした。なぜ自分の家ではなく、食堂で子どもたちに食事を提供しているのでしょうか。気になって調べてみると、「相対性貧困」という言葉が目に入りました。相対性貧困とは、豊かな私たち日本の国の中で周りの人よりも貧しい生活をしているために、栄養のある食事を十分にとることができない状況のことです。そういう状況にある人が20人に1人の割合で私たちの周りにいるという事実が、私には信じられませんでした。

私が住んでいる地域の地区センターでは「月イチカレー」というイベントがあります。月一回、金曜日の放課後の時間帯に無料でカレーが食べられるという企画です。私はそのイベントに何気なく参加し、美味しくカレーを食べていましたが、実はこの企画も相対的貧困で困っている人たちのためのものでもあるのかもしれないと気づきました。

余ったり、足りなかつたりすることのない仕組みを作ることにはできないのでしょうか。世界で食事に困っている子どもたちに余った食品を送ることは難しいですが、地域ごとの小学校などから余った食材を子ども食堂に送り、使ってもらうことはできると思います。また、子ども食堂を市や区だけでなく、個人や企業などでも率先して地域や町ごとで同様のイベントを増やしていけば、その地域ごとの相対性貧困で困っている人を助けることができるのではないのでしょうか。

みんながそれぞれ持っているものを互いに共有しあえば、みんなが幸せになれる社会の実現に近づけるのではないかと私は考えます。

大切なことは、周りの人の状況に気づくこと。困っている人に何ができるか、考えること。そしてそれを、勇気を持って実行することだと思います。

今、私にできることは少ないですが、フードバンクの活動に参加したり、ボランティアとして子ども食堂で手伝ったりすることはできます。そういった活動を通して分かち合いの精神を広めて、みんなが幸せになれる社会を目指せる人になるためにがんばります。